

『古地図や絵図を活かす。』

展示だけじゃない、収蔵資料の活かし方。今回は、私たち人と自然の博物館の特徴であるひとはくセミナーでの活用についてご紹介します。ひとはくには、江戸時代に描かれた古い本や様々な時代の地図といった歴史的に価値のある資料も収蔵されています。それらの資料を使って私が担当しているセミナーが「絵図や古地図を片手にぶらり。今昔まちあるき」シリーズです。江戸時代のベストセラー!?となった旅行ガイドブック(のようなもの)である摂津名所図会(せつつめいしよずえ)を中心とした資料を片手に街を歩くのです。摂津名所図会は、日本に今も根強く残る旧国の摂津国(今の大阪府北部から兵庫県南東部)にある様々な名所をわかりやすい絵とともに紹介しています。1796年(江戸時代の中期)に著者の秋里籬島(あきさとりとう)によって出版されました。籬島は、これ以前に記された歴史書の「延喜式」「日本書紀」や、武士の逸話の収集のために「平家物語」「太平記」といった様々な書物から摂津国に残る歴史や伝説、逸話を読み解きました。また、何よりも籬島自身の取材は膨大で、当時の流行の話題も取り上げており、歴史的逸話、流行の最先端を組み合わせ、当時の市民に伝えたのです。そんな意味では、我々博物館の研究員の大先輩ですね。

さて、資料の活用に話を戻します。セミナーでは、この摂津名所図会にある風景を探しに行くのが、目的の一つになっています。

例えば、写真1にあるのは、西宮の通りでの風景です。西宮戎神社界隈に多く暮らしていた傀儡師(くぐつし)と呼ばれる人形使いが、まちの子どもたちに「えべっさんの伝説」を人形劇として披露している様子が描かれています。こうした傀儡師が、日本全国に出向き人形劇を披露したことから、全国にえびす信仰が広まったとも言われています。こんな風景、今に受け継がれているのでしょうか?受け継がれているならば、どんな形になっているのでしょうか?今の風景を見つけた時、目の前の資料と見比べると、参加者のみなさんとまるでタイムスリップしたような気持ちになるのです。資料の価値を一緒に体験して頂けるよう、様々なセミナーがひとはくにはあります。

ぜひ一度、参加してみてください。

福本 優 (自然・環境マネジメント研究部)



写真1 摂津名所図会
(人と自然の博物館所蔵)



写真2 まちあるきの様子

トピックス

ひとはくセミナー活用術

「博物館で展示をしませんか?」という問いに、「してみたいけど、どうしていいかわからない」という答えが返ってきます。博物館での展示を体験してもらうために、自ら撮った植物写真を館内で展示するというセミナーをしました。写真技術を競うのではなく、植物を知るための一手段としての写真展示です。まず自分が展示したいテーマを考え、それに沿って植物を撮影します。秋までに撮り溜めた写真の中から展示用写真を決めます。選んだ植物のことや撮影の苦労話などを盛り込んでキャプションをつくります。最後に、各自が写真を額装して展示ボードに吊りさげ、位置を揃えて完成です。苦労してでき上がった

展示作品を見る皆さんの顔は、達成した喜びでいっぱいでした。

ひとはくではさまざまなセミナーをしています。皆さんもこれを活用して希望をかなえてみてはいかがでしょうか?

高橋 晃 (自然・環境再生研究部)



野外で写真撮影をする
セミナー受講者



実際の展示のようす

ひとはく通信

ハーモニー

104

Feb. 2019

特集 篠山層群の恐竜・鳥類 卵化石発掘調査

篠山川沿いで実施された卵化石発掘調査（撮影：丹波市 恐竜・観光振興課）